



環境活動レポート
2016 年度版

－目次－

1. 組織概要	・・・ 3
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	・・・ 4
3. 環境方針	・・・ 5
4. 環境目標	・・・ 6
5. 環境活動計画	・・・ 8
6. 環境目標の実績	・・・ 12
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	・・・ 14
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	・・・ 19
9. 代表者による全体評価と見直しの記録	・・・ 19

第1章 組織概要（事業所名、所在地、事業の概要、事業規模等）

（1）事業所名及び代表者名

株式会社東洋精機製作所 代表取締役社長 秋山 秀雄

（2）所在地：

本社 CS センター 〒114-8557 東京都北区滝野川 5-15-4



(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

役職	部署	担当者
環境管理責任者	品質保証室	井上 均 (2016年4月～9月)
		塚田一樹 (同10月～2017年3月)
事務局	管理部	笹部 正雄
	品質保証室	根岸 靖博、横山 勝、溝口 義浩

連絡先 : TEL 03-5915-5013 FAX 03-5915-5014 (品質保証室)

TEL 03-3916-8188 FAX 03-3916-8313 (管理部)

(4) 事業内容 : 材料評価試験装置の開発・設計・製造・販売・修理

(5) 事業規模 :

[売上高] : 約42億円 (2016年度)

[従業員数] : 155人

第2章 対象範囲 (認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日

(1) 対象範囲

対象事業所

- 本社 CS センター 〒114-8557 東京都北区滝野川 5-15-4
- 東京工場 〒115-0051 東京都北区浮間 5-4-23
- 舟渡サポートセンター 〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-2-6
- 大阪支店 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町 5-3 (豊田ビル)
- 名古屋支店 〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵 3-15-31 (千種ビル)

(2) レポートの対象期間及び発行日

- ・対象期間 2016年4月1日～2017年3月31日
- ・発行日 2017年6月30日

認証・登録番号： **0000165**

(2005年4月取得)

基本理念

当社は、地球環境問題が人類共通の重要課題との認識のもとに、全社をあげて環境との共生・調和に配慮した事業活動を自主的・積極的に推進し、環境負荷削減に向けて継続的改善に努めます。

地域の発展に協力して、地域社会との共生を図ります。また良き企業市民として社会貢献活動を行います。

環境活動指針

当社は、材料試験機・測定機器の設計・製造・修理などの事業活動を展開する中で、環境に対する「基本理念」を達成するために、一人ひとりが法を遵守し、モチベーションを高め、実効性のある環境マネジメント活動を実践致します。

- ・ 製品の環境負荷の低減化に一層取り組みます。
- ・ 電気の使用効率を高め省エネルギーに取り組みます。
- ・ ガソリン・水・梱包材など、使用する資源の削減に取り組みます。
- ・ 廃棄物の減量化及び分別・リサイクル率の向上と、グリーン購入推進により資源の再利用に取り組みます。
- ・ 環境活動レポートを公表し、各階層との環境コミュニケーションを深めることに取り組みます。上記の環境方針・環境活動指針を全従業員に周知させ、環境目標を達成するよう推進いたします。

2017年5月12日制定

代表取締役社長 秋山 秀雄

第4章 環境目標

東京工場・舟渡サポートセンター・本社 CSセンター 2017年度環境目標

取組項目		2019年 目標予定 未定	2018年目標予定 2016年度比総量で 0%削減（現状維持）	2017年度目標 2016年度比総量で 0%削減（現状維持）	備考 (2016年度実績)
二酸化炭素削減 ※ ¹			32万 kg-CO ₂	32万 kg-CO ₂	32万 kg-CO ₂
購入電力 削減	東工		256,101 kWh	256,101 kWh	256,101 kWh
	舟渡		161,134 kWh	161,134 kWh	161,134 kWh
	本社		79,890 kWh . 0	79,890 kWh	79,890 kWh
ガソリン使 用量削減	東工		11,692ℓ	11,692 ℓ	11,692ℓ
	舟渡		1,372 ℓ	1,342ℓ	1,342ℓ
	本社		17,887 ℓ	18,604 ℓ	18,604 ℓ
一般廃棄 物削減	東工		2,425 kg リサイクル率：84.5 %	2,425kg リサイクル率：84.5 %	2,425 kg リサイクル率：84.5%
	舟渡		825 kg リサイクル率：80.7 %	825 kg リサイクル率：80.7 %	825kg リサイクル率：80.7%
	本社		717kg リサイクル率：65.7 %	717 kg リサイクル率：65.7 %	717kg リサイクル率：65.7%
水使用量 削減	東工		1,612 m ³	1,612 m ³	1,612 m ³
	舟渡		708 m ³	708 m ³	708 m ³
	本社		506 m ³	506 m ³	506 m ³
容器・梱 包材使用 量削減	舟渡		4,802kg	4,802 kg	4,802 kg
環境配慮製品の開 発・設計 ①全体評価			総トータルで 137 ポイント達成	総トータルで 137 ポイント達成	総トータルで 137ポイント達成
②個別機種評価			環境製品を 4機種以上	環境製品を 4機種以上	環境製品を 4機種

※¹：二酸化炭素削減は、購入電力量とガソリン使用量より算出した。

①2017年4月26日のエコアクション21全体会議により、2017年度の目標は2016年度比総量現状維持としました。2019年度の未定の理由としては、2018年度に関しては、2016年度比総量現状維持としているが、2017年度の結果を見て判断します。

大阪・名古屋支店 2016 年度環境目標

取組項目		2019 年度 目標予定	20018 年目標予定 2016 年度比総量で 0%削減（現状維持）	2017 年度目標 2016 年度比総量で 0%削減（現状維持）	備考 (2016 年度実績)
二酸化炭素削減			7.3 万 kg-CO ₂	7.3 万 kg-CO ₂	7.3 万 kg-CO ₂
購入電力 削減	大阪		27,120 kWh	27,120 kWh	27,120 kWh
	名古屋		17,088 kWh	17,088 kWh	17,088 kWh
一般廃棄 物削減	大阪		450 kg	450 kg ※ ₂	375 kg ※ ₁
	名古屋		715 kg	715 kg	715kg
水使用量 削減	大阪		67 m ³	67 m ³	67 m ³
	名古屋				数値化できないため 節水取組課題を決 め、その活動を表記 する。
ガソリン使 用量削減	大阪		11,488 ℓ	11,488 ℓ	11,488 ℓ
	名古屋		10,749 ℓ	10,749 ℓ	10,749 ℓ

備考

①2017 年 4 月 26 日のエコアクション 21 全体会議により、2017 年度の目標は 2016 年度比総量
現状維持としました。

（※今年度の売上目標が、前期よりも増額した事を勘案し、現状維持としました。）

②水使用量に関して・・・名古屋支店の水使用量は、テナントビルのため数値化できないので
節水取り組み課題を決めて、その活動内容を表示することとします。

③その他・・・二酸化炭素削減は、大阪・名古屋両支店の購入電力量とガソリン使用量より算出
しました。

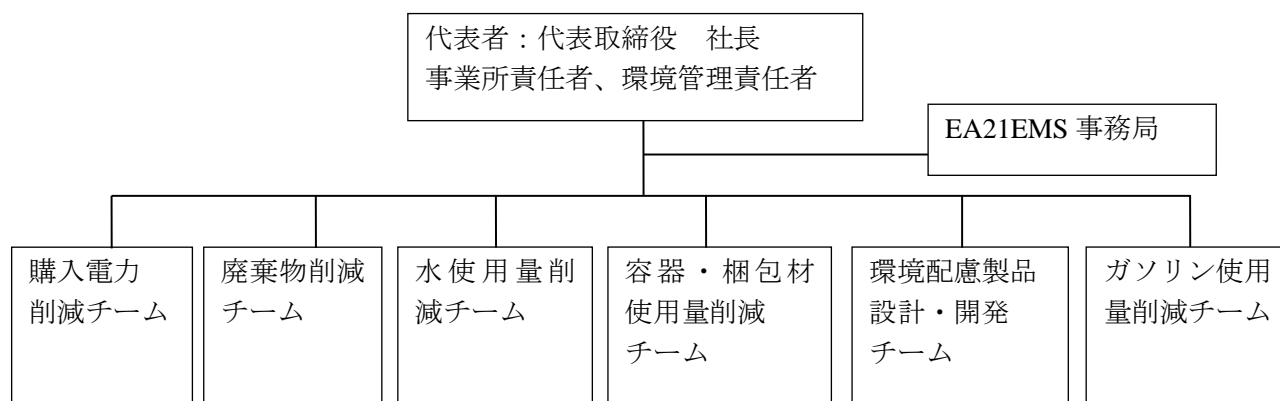
※₁・・・2016 年度は 6 月よりデータ取得方法を変更したため

※₂・・・2016 年度のデータを 1.2 倍した数値を目標とする。

第5章 環境活動計画

5.1 組織体制について

当社の環境方針【基本理念】に基づき、環境管理責任者・事業所責任者・EA21EMS事務局及び活動取組チームが中心となって環境負荷削減活動を進めると共に、環境経営システムの定着及び環境に関して遵法及び継続的改善に取り組みました。



5.2 各活動チームの2016年度の実績

全社の環境目標を達成するために、事業所責任者及び環境管理責任者のもと、実質的な活動として目標項目毎に「活動取組チーム」を編成し、1/4期毎に活動内容のP.D.C.A進捗管理を行い、年度末に活動結果と評価をまとめています。

各チームの主要取組内容は以下の通りです。

(1) 環境配慮製品設計・開発チームの活動計画

年度活動計画	具体的展開	進捗確認
①各開発・設計にて環境配慮項目に関するポイントを集計する。	削減率によりポイント設定と重み付けを考慮した「環境負荷ポイント計算表」を作成し、それぞれの開発・設計にてポイント付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ラボプラストミル モデルチェンジ 構想時 51 ポイント 廉価版HD T試験装置 構想時 47 ポイント 新型PICMA タックテスタ 構想時 15 ポイント 新型キャピログラフ 構想時 24 ポイント
②6機種以上の環境配慮製品を計画し、トータルで200ポイント以上の目標とする。	開発 6機種以上の環境配慮製品を計画し、トータルポイント200ポイントを獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> 微少伸び計 162ポイント獲得 一軸押出試験機 10ポイント獲得

(2) 購入電力削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	進捗確認
①空調管理： 必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いようにエアコンの調節を行い、不要な場所、不要な時期（4～6月・10～12月等）は電源 OFF	6～9月（夏季）：28℃・12～3月（冬季）：19℃を目安に必要以上の暖め過ぎ・冷やし過ぎが無いように各フロアの管理担当者が空調管理を行う。扇風機、加湿器の活用を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ●夏季：クールビズ ●冬季：プラス1枚の厚着
②照明管理：休憩時間の消灯及び不就業場所の消灯	昼休み時間の消灯及び不就業場所の消灯。	<ul style="list-style-type: none"> ●昼休み時間の消灯確認 ●蛍光灯の削減
③待機電源の削減：IT 関連機器の削減。加工機・製品不使用の節電	就業後の不使用 PC の電源 OFF。加工作業・製品検査で長時間持ち場を離れる場合、加工機、製品の機能を損なわない範囲でその電源を切る	●就業後の終夜運転機以外の停止確認
④共同施設・設備の電源管理の徹底を図る： トイレ・エントランス・食堂・会議室・コンプレッサー・サイクル変換機・恒温恒湿室など。	トイレ・エントランス・食堂・会議室は最終使用者が照明・エアコンの電源を切る。コンプレッサー・サイクル変換機の管理は手順書を定め、機械室扉に掲示する。	●各所消灯・就業後の機械室電源 OFF 確認
⑤エアコンの適度な運転。	エアコンの使用台数を減らし、夏季は設定温度 28℃として、扇風機などの使用により冷気を廻す。冬季は加湿器の使用により湿度を上げて、体感温度を上げる。ブラインドの開閉を積極的に行い、エアコンの効率を上げる。	●エアコンの間引き運転実施
⑥社内パトロールの実施	パトロールを実施し、不就業場所の消灯、エアコン設定温度などの確認を実施する。	●節電チェック対策表に確認内容記載

(3) 廃棄物削減チームの取組について

0	具体的展開	進捗確認
①各フロアでゴミ廃出量の記録を取り、月の集計を掲示して目標達成の意識付けを図る。	エントランスの「はかり」でゴミ搬出者が重量を記録する。週末に小集計と月末に全体の集計を行い、排出状況を毎月掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴミ捨て担当者に適切なシールを貼るように指導 ●ゴミ出しの手順書ポスターの掲示
②資源ごみを一般廃棄ごみで出さない様に分別監視し、リサイクル対象品と廃棄物の分別の徹底を図る。	一般廃棄物の分別を確認し、資源ごみは資源回収用箱に入れさせるように指導を行う。	●分別をメール・朝礼などで啓蒙した。

③資源ごみ（ダンボール・コピー用紙・新聞・カタログなど）の回収業者に引き取りを依頼し、重量を測定する。	ダンボール収納箱が一杯になったら管理部に連絡し回収業者を呼ぶ。分類別に重量を測定し記録する。	・回収業者から引き取った資源ゴミの報告書を提出して頂き記録する。
④リサイクルの種類を増やし、ごみを減量する。	リサイクルできるものをピックアップし回収のルールを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄図面を機密文書扱い（リサイクル処理品）に変更 ●インクジェットカートリッジの回収箱の設置
⑤産業廃棄物の処理を適切に行う。	4 半期ごとにマニフェスト票と管理票を確認する。産業廃棄物顧客引取品管理簿で、排出内容と重量を記録する。	●適切に確認し記録されている。

(4) 容器・梱包材使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	進捗確認
①梱包材の使用量の確認	梱包材の購入量の把握を購入伝票から算出する。	購入伝票をチェックし、パソコンに記録する。
②外部より持ち込まれる製品・部品に関して通い箱の奨励を図る。	通い箱変更できる購入品、定期荷物は段ボールから変更させる。	啓蒙活動は行ったが、特段変更はなかった。
③梱包材のリサイクルの徹底	ポスターにて「梱包材のリサイクル」を徹底させる。	ポスターの変更

(5) ガソリン使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	進捗確認
①車をできる限り使用しない	車での長距離移動をできる限り行わず、公共の交通機関とレンタカーを利用する。都内の公共交通機関で済む場合は、できる限り使用しない。	●朝礼にてアナウンス
②空気圧をチェック	3ヶ月に1回、タイヤの空気圧をチェックする。	●自動車運行日報にチェック欄を設け、実施した。
③車の荷物をできる限り軽くする。	荷台に不要な物を置かない（降ろす）。	●5S活動にて実行
④ガソリン使用量削減のための啓蒙を行う。	ポスター、回覧、朝礼にてエコ運転を啓蒙する。	<ul style="list-style-type: none"> ●エコドライブ10のすすめ掲示 ●安全ドライブ5箇条掲示 ●エコ安全ドライブチャレンジ実施

(6) グリーン購入取組チームの取組について

グリーン購入取組チームは、

年度活動計画	具体的展開	進捗確認
①毎月、グリーン購入率を算出。	社内消耗品における毎月のグリーン購入率を出す。	四半期毎の購入率を算出
②年度末に年間のグリーン購入率を算出する。	上記に基づき、社内消耗品における年間のグリーン購入率を出す。	グリーン購入率を算出。
③グリーン商品以外の購入品の調査。	全体購入のうち、グリーン商品外の購入品を1/4期毎に調査する。	グリーン商品外の購入品を1/4期毎に調査する。

(7) 水使用量削減チームの取組について

年度活動計画	具体的展開	進捗確認 成果
①洗面所止水栓の調節	必要最低限の流量に調節する。 (事件例：ハンドル全開時流量 蛇口全開で約2～30分に調節(手洗いで違和感がない流量約40分))	3箇所の流量を調整した。
②器具のチェック	水漏れがないか各器具をチェックし、必要であれば改善を図る。	水漏れ箇所はなし。 舟渡は器具の改善を行った。
③垂れ流しの防止	水道の垂れ流しの防止を徹底する。 ポスターにて「節水」の啓蒙を行う。	簡単なポスターの掲示。
④毎月、水道栓のメータを記録し、漏れがないか点検する。その際問題があった時は点検を行う。	毎月の記録を記入し、問題があった時は原因究明及び適宜チェックを実施する。	1箇所の流量を調整した。

第6章 環境目標の実績

6.1 環境負荷抽出結果報告

東京工場、舟渡サポートセンター及び本社 CS センターにおける二酸化炭素排出量、廃棄物最終処分量、総排水量、及び資源(製品の原材料など)利用量の過去 2 年間の実績と 2014 年度の結果は下記の通りです。

項目		単位	14 年度	15 年度	16 年度
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	5,501,428 (全体)	5,357,930 (全体)	5,321,303 (全体)
	化石燃料	MJ	2,139,904 (全体)	1,871,900 (全体)	1,883,051 (全体)
物質使用量	資源投入量	t	95.0 (91 t は総製品生産量)	114 (91 t は総製品生産量)	106 (91 t は総製品生産量)
水資源投入量	上水	m ³	2,850 (名古屋支店を除く)	3,117 (名古屋支店を除く)	2,893 (名古屋支店を除く)
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	381,214 (全体)	357,133 (全体)	392,010 (全体)
総生産販売量	製品販売総重量	t	91 (全体)	105 (全体)	90 (全体)
	容器・包装使用量	t	4.4 (全体)	4.4 (全体)	4.8 (全体)
廃棄物量 (一般廃棄物)	最終処分量	t	4.68 (全体)	4.73 (全体)	4.97 (全体)
廃棄物量 (産業廃棄物)		t	26.6 (東京工場のみ) 金属くず、木くず 廃油・廃アルカリ他	15.3 (東京工場のみ) 金属くず、木くず 廃油・廃アルカリ他	15.3 (東京工場のみ) 金属くず、木くず 廃油・廃アルカリ他
総排水量	下水道使用量	m ³	2,850 (名古屋支店を除く) (水排水量と同じ)	3,117 (名古屋支店を除く) (水排水量と同じ)	2,893 (名古屋支店を除く) (水排水量と同じ)

- 総エネルギー投入量の化石燃料は、液化石油ガス (LPG)、ガソリン購入量のみ該当。
- 総物資投入量は、総製品販売量に廃棄物等総発生量 (燃料外のガス、紙購入量、金属の切り粉など) を加算した値である。
- 容器・包装は、段ボール・エアパッキン・テープ等で、製品出荷時に使用するものである。
- 廃棄物最終処分量は、リサイクル品(白上質紙・新聞紙・段ボール)、可燃ごみ、不燃ごみ、金属加工屑、顧客先から引き取った廃棄製品、廃油などを合計した値である。
- 水資源投入量と総排水量は、同じとした。
- 購入電力の排出係数は、0.491kg-CO₂/kWh とする。

6.2 各チームの目標達成率と実績値

(1) 環境配慮製品設計・開発チームの取組に関して

2016年度は、環境配慮製品について2機種が達成されました。

環境配慮製品名：①微少伸び計

全体で162ポイント達成

②混練押出機

全体で10ポイント達成

①微少伸び計

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
電力量削減	A (主力 26機種)	16~20% 削減目標	<u>36ポイント</u> Aクラス(3点) × 12ポイント	電力消費量 1A→0.8A
重量削減		31%以上 削減目標	<u>63ポイント</u> Aクラス(3点) × 21ポイント	現行5.85kgから 3.25kgになった。 26%減少
容積削減		31%以上 削減目標	<u>63ポイント</u> Aクラス(3点) × 21ポイント	現行11511.5cm ³ から 7207.2cm ³ 減少した。

②混練押出機

削減項目	製品群の重み	構想時ポイント	完了時ポイント	削減内容の説明
グリーン購入	C (主力 26機種 以外)	1個 ポイント 10以下 削減目標	<u>10ポイント</u> Cクラス(1点) × 10ポイント	グリーン購入製品の SUSフレームに変更



微少伸び計

用途) ISO や JIS 規格などに定められた硬質プラスチック試験片の引張弾性率を求めるときの2点間のひずみを測定するストレインゲージ式変位計です。

第7章 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

7.1 各チームの年度末評価と事業所責任者の評価

東京工場

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価と次年度の取組内容
購入電力削減	今年度は削減目標値 4%に対し、5.7%削減で目標達成することができた。昨年同様の活動を行ったが、アナウンス不足もあり昨年より成果が劣ってしまったが、徐々に節電への意識が上がってきたように思う。まだエアコンの消し忘れや電気の消灯忘れが数件見られるので、来期はしっかりアナウンスしていきたい。	<u>事業所責任者の評価</u> 照明またはエアコンの消し忘れ、特にエントランスの打合せスペースにて時々見られたが、全体的に節電の意識は高まりつつある。 <u>次年度の取組</u> ある程度のレベルまで来たと思われるのでこれ以上大きな前進は望むことは出来ないが、これまで同様地道な活動を続けていく。
廃棄物削減	一般ゴミ：2,425 kg リサイクルゴミ：4,587 kg リサイクル率 ・可燃、不燃 72% ・産業廃棄 91% 工場内における分別は問題なし 協力工場のゴミ分別指導の必要あり。	<u>事業所責任者の評価</u> 2016年度は、まだ使用可能なファイル及びバインダーが大量に捨てられそうな事があった。これらを反省し、経費削減はゴミを減らすことになることを周知し、ゴミ削減に取り組んでいきたい。 <u>次年度の取組</u> 今後も粘り強い周知活動を行って頂きたい。
水使用量削減	目標に対し約 16%増だった。主な要因としては、6月は HDT 試験装置の出荷増と廉価版 HDT 試験装置の開発、10月は HDT 試験装置、フィンボプレス、冷付衝撃試験機の出荷増により使用量が増えた。また、事業所自体の老朽化もあり、微量ではあるが水漏れ箇所が複数確認された。(修理見積り依頼中) 13年度に比べ売上高も約 10%増加しているため、来年度は 13年度比ではなく、16年度比で目標を設定した方が良くと思われます。	<u>事業所責任者の評価</u> 2016年度は、冷却水を多量に使用する装置の出荷検査の件数が多かったことが、主な原因で目標を下回ってしまった。近年では異例なことなので 2017年度は、2016年度比で目標を設定する事に賛成です。 <u>次年度の取組</u> 今年度も同様な活動を行って頂きたい。
ガソリン使用量削減	毎月の燃費発表が行えなかったことで車使用者のガソリン使用量、燃費向上の認識が薄れていたことが反省である。 ガソリン使用量は各期ばらつきがあるものの累計で見ると昨年比 0.4%となっており、頭打ちになっているところがある。 引き続き不要な荷物を積まない、アクセルワークに気を付けるといった運動を継続させていく。	<u>事業所責任者の評価</u> 東工社有車の燃費性能と社有車利用の業務量は、前年度と比べても変化はほとんどないので、燃費の改善も大きくは変わらなかったと思われる。 <u>次年度の取組</u> 最近、技術サービス課でリースした車がアイドリングストップ車なので、今後は燃費改善に期待が持てる。

環境配慮製品	完了を予定していた開発が遅れ、重要開発配慮製品上記 4 機種での獲得ポイントは 0%となった。また、重要開発配慮製品以外の開発が後半になって完了し、達成率は 86%となった。重要開発配慮製品の開発を完了出来ない主な要因は取扱説明書完成待ちで今後は目標設定の検討が必要です。	<u>事業所責任者の評価</u> 予定していた重要開発配慮製品（4 件）の完成数が 0 件ということに対して非常に残念である。つまりエコアクション 21 の環境活動において貢献率が非常に低くなった。 <u>次年度の取組</u> この反省を技術部内で踏まえ 2017 年度は製品開発による貢献を優先的に考え獲得ポイントを伸ばしていく活動を行う。
--------	--	--

舟渡サポートセンター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価と次年度の取組内容
購入電力削減	目標削減使用量：171,636 kWh 年間使用量：161,134 kWh 2013 年実績（178,788 kWh）に対し、約 9.9%ダウン。 目標値を 10,502 kWh 下回る。 目標達成し、実績値（2013 年度）も下回ることができた。	<u>事業所責任者の評価</u> 予想を上回る大幅な削減は評価できる。 <u>次年度の取組</u> 次年度も目標達成のために取り組んでいただきたい。
廃棄物削減	一般廃棄物 825.38 kg(実績) 目標 825 kg に対して 0.1 %アップ リサイクル率 =(資源ごみ 3443.02kg) /ごみ全体 4268.4 kg)=80.7% 目標 79.1%に対して 1.6 %ダウン。 リサイクルの分別が徹底されたため目標を達成できた。	<u>事業所責任者の評価</u> 分別廃棄意識の向上が一般廃棄物の削減に貢献できた。 <u>次年度の取組</u> リサイクル目標の根拠を明確にし、目標削減に取り組むこと。
水使用量削減	2016 年度目標 1,096 m ³ に対し、 2016 年度実績 708 m ³ 、前年比 64.6% 引き続き削減に努めたい。	<u>事業所責任者の評価</u> 節約の意識が全員に浸透した結果で、評価出来るが、目標と実績に大きな差がある。 <u>次年度の取組</u> 要因を分析し次年度の目標に反映させる事！
容器・梱包材使用量削減	アルミケースでの納品では 16 年度 8 件、15 年度は 4 件だったため上回ることができた。段ボール購入量は 4,820 kg と昨年は 4,362 kg なので 440 kg 増加したものの目標よりは 109 kg も削減できた。17 年度も削減できるように努力します。	<u>事業所責任者の評価</u> 削減目標の達成は、ある程度評価できるが、前年度比使用量との関係など目標見直しを検討して欲しい。 <u>次年度の取組内</u> 目標結果を分析し、次に繋げて欲しい。
ガソリン使用量削減	燃費に関する結果は昨年比 94.9%、目標比 97.8%目標達成となりました。 ガソリン使用量削減担当になって、3 年目となり前年度時点で削減は困難と思っていましたが運転者の皆さんが燃費の良い運転・不要な荷物を積まない事をこつこつと続けてくれた結果だと思えます。	<u>事業所責任者の評価</u> 目標達成は評価できるが、リーダーが諦めては士気が下がる。 <u>次年度の取組内容</u> 現状を分析し、来期の目標を設定すること。

本社 CS センター

	チームの年度末評価	事業所責任者の評価と次年度の取組内容
購入電力削減	2015 年度と比較して、少しではあるが使用量が削減できた。支払料金の面では契約を締結したことにより、効果が出来ているのではないかと思う。	<u>事業所責任者の評価</u> 冬季休暇明けに一気に暖房をつけたときに毎年、デマンドが反応する。対策を講ずるべきである。 <u>次年度の取組内容</u> 活動の維持を行って下さい。
廃棄物削減	今年度の目標値 957 kg に対して実績 717 kg ▲25%である。 2015 年度実績 740 kg に対しても▲3%で順調に推移しています。 来年度もゴミ削減に向け活動します。	<u>事業所責任者の評価</u> 削減できたことは活動の成果です。 <u>次年度の取組内容</u> このまま継続できるように活動をお願い致します。
水使用量削減	今年度は 1/4～2/4 期は目標を下回り、順調であったが、3/4～4/4 期と続けて目標を上回る状態が続いている。原因の追及が出来なかったので水漏れチェック点検などが必要と思われる。	<u>事業所責任者の評価</u> 更なる節水活動を続けて欲しい。 <u>次年度の取組内容</u> 来期は原因追及を確実に実施してください。
ガソリン使用量削減	1.目標より約 4%増の使用量となりましたが、売上目標達成を考慮した場合、許容範囲内と思います。 2. 過去 3 年間の使用量が (18,505.70) (18,439.50) (18,604.00) から保有台数と行動範囲により、年間使用量は 18,500前後になると思われます。 3. 使用量削減のアナウンスは引き続き行っていきます。	<u>事業所責任者の評価</u> ガソリン使用量削減のため啓蒙活動が実った成果だと思います。 <u>次年度の取組</u> 来期も引続き啓蒙活動を実施してください。また、ドライブレコーダ設置車両においては、車両稼働実績などからガソリン削減に利用できないか模索してください。
グリーン購入	2015 年度購入率は、58.6 %と目標の 55.5 %をクリアすることができました。グリーン商品への代替調査を 21 点行いましたが代替可能商品はありませんでした。	グリーン商品の購入は、金額がアップとなるので監査時に活動継続を問われております。事務局と相談し、継続するか否かを決めてはいかがでしょうか？

大阪支店

	チームの年度末評価	次年度の取組内容
購入電力削減	年間電力使用量：27,120 kWh 目標達成率：100.9%。今年は辛うじて目標を達成することができました。継続して努力していきます。	目標達成できました。引き続き努力願います。
廃棄物削減	年間廃棄量：288.46 kg 目標達成率：95.0 % 今期は達成することが出来なかったため無駄なゴミを出さないよう努力致します。	引き続き努力願います。
水使用量削減	年間水使用量：67m ³ 目標達成率：103.0 %	目標達成できました。引き続き努力願います。

	今年度は前年度より、少し減らすことが出来た事で目標達成できました。	
ガソリン 使用量削減	年間ガソリン使用量：11488.1 ℓ 目標達成率：99.6 % 前年度より少しは良くなってきているが、もう少し努力致します。	引き続き努力願います。

名古屋支店

	チームの年度末評価	次年度の取組内容
購入電力 削減	年間購入電力量：17,088 kWh 2016 年度は寒暖差が激しく目標を達成できませんでした。引き続き節電に努めます。	引き続き努力願います。
廃棄物削減	年間廃棄物量：714.47 kg 目標達成率：85.4 % 人員増加（1 人）の影響と思われます。引き続き削減に努めます。	引き続き努力願います。
水使用量削減	引き続き節水に心がけます。	引き続き努力願います。
ガソリン 使用量削減	2016 年度実績 年間ガソリン使用量：10,749.7 ℓ 営業活動（北陸地方方面の営業活動の増加）拡大の影響だと思えます。引き続き削減に取り組みます。	来期も活動を継続してください。

7.2 2017 年度以降の環境目標の設定と展開について

(1) 2017 年度以降の「環境目標」の設定

2016 年 4 月 27 日のエコ活動メンバーの全体会議の中で、2017 年度の目標設定については、2016 年度の実績値をベースとして、現状維持にて活動していくものとしていくことを確認しました。

（※今年度の売上目標が、前期よりも増額した事を勘案し、現状維持としました。）

(2) 環境配慮製品は当社の環境へのアピールポイントとして環境削減負荷低減目標を定め、ポイント制を継続し、今期も活動の定着を目指します。

(3) 環境関連法令による規制の遵守を徹底するために、「環境法規制等要求事項一覧及び遵守評価表」を作成し、適宜確認を行います。

7.3 他の環境活動

(1) 教育・訓練の実施

内部監査員・従業員への教育・訓練の実施や全社員に機関紙として、[エコアクション 2 1]を発行が昨年度は出来なかったのが今年度（2017 年度）は、計画して発行していきたい。

2017年4月の会議において、エコアクション21 チームリーダー・メンバー及び内部監査員に、“エコアクション21 ガイドライン 2017年版”の説明会を行い、環境活動の意識向上を測りました。

● 教育訓練計画表及び実施記録 (2016年4月～2017年3月)

月	内容	対象	講師	実施記録
4	チーム活動の進捗管理(4/4期) 年度環境活動計画決定会議	各チーム 内部監査員		活動記録 議事録
5	緊急事態対応訓練	対象者	事務局	活動記録
6	内部環境監査(東工・舟渡SC) クリーンアップ作戦 ISO・EA21 新入社員向け勉強会 内部環境監査(本社CSセンター・両支店) クリーンアップ作戦	内部監査員 対象者 内部監査員	事務局	報告書 訓練記録 報告書
7	チーム活動の進捗管理(1/4期) マネジメントレビュー議事録確認 定期審査 機関誌発行	各チーム サンビ会 内部監査員 事務局		活動記録 議事録 報告書 実施
8	特になし			
9	特になし			
10	チーム活動の進捗管理(2/4期)	各チーム		活動記録
11	特になし			
12	機関誌発行 エコアクション21 勉強会	事務局	環境管理 責任者	未実施 未実施
1	チーム活動の進捗管理(3/4期)	各チーム		活動記録
2	特になし			
3	機関誌発行			未実施

(2) クリーンアップ作戦

事業所周辺地域とのコミュニケーションの一環として、クリーンアップ作戦(通勤経路及び事業所周辺のゴミ拾い)を年に1回有志で実施しています。

2016年度の実施報告:

2016年6月1日(水) 17:15～18:00 東京工場周辺清掃 有志参加者約70名

2016年6月8日(水) 17:15～18:00 本社CSセンター周辺清掃 有志参加者約30名

地域の環境を美化する地域社会への貢献は、環境活動の第一歩と考え、今後も継続していく予定です。



↑ 東京工場周辺清掃 ↑

↑ 本社CSセンター周辺清掃 ↑

第8章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

8.1 「環境法規制要求事項一覧及び遵守評価表」による自己チェック結果

当社が該当する、「環境基本法」から「労働安全衛生法」までの16法令の要求事項に関して、2017年3月31日にEMS事務局によりチェックを実施した結果、抵触する事項は0件であり、早急な改善を要する事項も0件でありました。また、緊急事態の発生も今年度も0件でした。

東京都知事宛に廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の3第6項の規定に基づき、2017年6月12日に「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」を提出しました。

8.2 関連機関等からの外部チェック結果

当社が該当する、省資源と廃棄物、省エネと気候変動、自然保護等の各法規制等に抵触する旨の指摘及び訴訟は、関係機関等からはありませんでした。

当社はトップダウンにより、遵法精神に基づく環境経営活動及び企業活動を全従業員に強く意識付けています。

第9章 代表者による全体評価と見直しの結果

2016年7月実施の内部環境監査の結果をふまえ、7月8日に役員会に準ずる「サンビ会」(全役員・部長・次長の参加)において報告を行いました。その評価内容は以下の通りです。
2015年度 EMS マネジメントレビューより抜粋。

9.1 環境活動報告及び見直しに関して

- (1) 環境経営マニュアル「第1節計画」について
 - ① 要求事項に沿って適正に展開されている。
 - ② 環境負荷の抽出が適切になされており、全社展開での取組が定着してきている。
 - ③ 法規制などへの遵守チェック及び取組漏れ有無の確認が適正に実施されている。
- (2) 環境経営マニュアル「第2節計画の実施」について
 - ① 要求事項に沿った適正且つ有効な活動が継続的に展開出来るように注力すること。
 - ② 中長期的な計画・目標値の設定にあたり、継続的で段階的なものとする。更に、実情を考慮した実現可能な計画とし、確実に実施すること。
- (3) 環境経営マニュアル「第3節取組状況の確認と評価」について
 - ① 「担当者任せ」と見受けられる事が散見される。全社員が自覚を以て参加する地道な活動(ルールの遵守)に取組むこと。
 - ② ガソリンの使用量削減については継続して実質的な取組とすること。
- (4) その他の改善提案事項について
 - ① 2015年度の環境配慮型製品開発について部品選択などを含めて取り組まれていた。目標ポイントは適切に見直すこと。
 - ② 技術部門(技術課、検査技術課、技術サービス課)に対して、「下取り」についての周

知を早期に展開すること。

- ③ 導入したデマンドが有効に活用されている。決められた（エアコン運用等の）ルールを遵守し電力削減に努めると同時に、（温暖化ガスとしての）フロンガス排出抑制法の対応を進める。

2. 環境経営システムの有効性の確認

エコアクション 21 の要求事項に従い、各事業所で P.D.C.A が継続され、システムは概ね有効に維持されている。

3. 2015 年度 内部環境監査 について

- ① 計画・監査ポイントは的確で、短時間で効率よく監査されていた。
- ② 指摘事項・観察事項では実効性のある対応や取組を行う。
- ③ 大阪・名古屋両支店は本社内部監査時のテレビ会議上にて、適切に実施されている事を確認した。

9.2 全体に対しての社長のまとめ

- 環境関連法規及び環境関連要求事項の変更情報等を的確に掴み、適正な活動で社会貢献を成すこと。
- 当社の環境基本理念を全員が再確認し、「他人任せではなく」一人ひとりが主役であるとの自覚を持つ事。
- 技術部門においても「下取り」のルールをしっかりと認識し、遵守すること。
(修理における、水銀リレーや水銀ランプの交換時などに留意する。)

以上：作成者 事務局 溝口義浩